

## 2020年度事業報告書（特別養護老人ホーム美ヶ丘敬楽荘）

### はじめに

今年度、美ヶ丘敬楽荘では嘱託医や協力医療機関との医療連携強化を図り、多職種協同による個別ケアの実践を積み重ね、個々の利用者が健やかに生活を送ることができるよう取り組んできました。

個別ケアを進めるうえでは、ユニットごとに創意工夫を凝らし、ユニットリーダーを中心としたチームケア、スタッフマネジメントが求められています。

次世代を担う人材育成は何より大切な要素であり、やりがいをもってスキルアップを図ることができる組織運営を目指して取り組んできました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症のまん延により当初の事業計画を大きく変更せざるおえない深刻な状況となり、まずは利用者さんの安全を第一に考え、感染対策を徹底してきました。現在も外部との接触制限は継続し、利用者さんご家族との面会は、オンラインでの面会と、様々な制約の中で取り組んでいる状況にあります。

また、新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金を活用し、感染症対策に必要なマスク、手袋、防護具など必要物品を備え、A Iサーマルカメラや個別面会を可能とする移動壁設置等、設備環境を整えて対策を講じてきました。何より利用者さん・職員の体調管理を徹底し、柔軟な勤務調整を実践することで感染症罹患防止、クラスター発生防止を徹底してきました。

今後も北斗市・渡島保健所との連携のもと必要な感染対策を徹底し、利用者さん・職員の健康維持に努めてまいります。

そのような中ではありましたが、美ヶ丘敬楽荘は目指すケアを確立するため様々な取り組みを重ねてきました。

美ヶ丘敬楽荘と美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家ゆとり・きずなを中心に実施予定でありました「合同研修」は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で開催することができませんでした。拠点内で「基礎介護研修」を継続的に実施することができました。外部研修においては開催が制限されることが多く、予定していたユニットケア研修には参加できませんでした。オンラインによる「トータルケアプログラム」、「シーティングセミナー」、「新型コロナウイルス感染症対策セミナー」、「認知症高齢者の理解」などに参加し、研鑽を深めることができました。次年度においても、感染症対策を踏まえた上で必要となる介護・医療の知識や技術の習得に努めていきます。

そして、美ヶ丘敬楽荘を支える人材の確保・養成につきましては、エルダー制度のもと、必要な人材育成を継続的に行ってまいりました。新卒採用職員においては、社会人1年生で大変と感じることも多かったと思いますが、現在、立派に夜勤業務を担うまでに成長してくれています。

また、株式会社 ONODERA USER RUN との提携のもとフィリピンから特定技能の資格で2名を介護職員として受け入れる予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の流行により出国できず順延になっています。今後、フィリピンの感染状況を踏まえ、しっかりと受け入れができる体制を整えていきます。

また、ユニットに応じた柔軟な体制構築を目指し、生活サポート員増員を図ることができました。全職員の働きやすさがより良いケアに繋がるものであり、美ヶ丘敬楽荘の支援体制

を安定させるものと考えています。次年度も引き続き介護報酬改正を踏まえ、収支バランスを見極めながら最良の支援体制構築を目指します。

今年度、新型コロナウイルス感染症対策を第一に捉え、個々の入居者さんの健康維持、生活の充実を図ることを目指して介護職員、看護職員、生活相談員、管理栄養士、事務員等、多職種が連携して取り組んだ結果、年間平均利用率が96.7%となり、当初予算数値目標を上回ることができました。

また、短期入所生活介護「美ヶ丘敬楽荘」では、個々の利用者さんの身体状況、生活状況を踏まえ、トータル的な支援実践を積み重ねた結果、年間平均利用率85.2%と当初予算数値目標を達成し、高い利用実績を維持することができました。

美ヶ丘敬楽荘拠点は、2030年度を目途としまして日常生活圏域における地域包括ケアシステム確立を目指します。次年度は介護報酬改正に沿った根拠あるサービスの充実を図り、今まで以上に地域住民のお役に立つことができるよう努めてまいります。

2021年3月31日

特別養護老人ホーム美ヶ丘敬楽荘  
施設長 加藤 秀隆

## 2020年度事業報告書（美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンター）

### はじめに

美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンターは2018年4月に新しいデイサービスへ移転し3年が経過しました。レッドコードやマシン運動による「体の活性化」、くもん学習療法による「頭の活性化」、豊富なアクティビティや楽しみを持つことによる「心の活性化」を念頭に置き、住み慣れた自宅や地域での生活を長く継続できるよう、重点目標に沿いながら事業運営を行ってまいりました。目標利用率85%に対し、年間平均88.6%と目標を大きく上回ることが出来ました。

次年度は介護報酬改定が予定されており、現在取得している各種加算の内容変更や新規加算の創設など大幅な改定が予想されております。現在取り組んでいるプログラムをベースに報酬改定の情報をしっかりと収集し、加算取得に柔軟に対応できる体制作りに取り組んでまいります。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年とは大きく違った1年となりました。利用者の生活支援を第一に考え、感染者を出すことなく事業継続ができるよう、感染予防に努め、送迎時の検温や事業所内のアクリル板の設置、季節行事等の内容変更や中止などを行うことにより、感染者を発生することなく事業運営を行うことが出来ました。

次年度も継続して感染対策への取り組みを行い、感染者を出す事なくサービスの継続を行うことが出来るよう、日々緊張感を持ちながら事業所運営に努めて参ります。

そして、重点目標に挙げておりました送迎車両マイクロバスの更新を一般社団法人函館馬主協会様のご協力のもと執り行うことが出来、利用者様に快適で安全な送迎を提供する

ことが出来ております。

北斗市総合事業基準緩和型サービスAとして実施してまいりました生きがいデイサービスは今年度、新型コロナウイルス感染症に対する感染対策の為、地域の発生状況に合わせながら、開催場所やプログラム内容を変更し、事業運営をしてまいりました。緊急事態宣言に伴う、開催場所の休館等はありませんでしたが、感染対策をしっかりと行い事業運営を行うことにより感染者を出すことなく事業を実施することが出来ております。

また、8月に「北斗市公民館」にて月曜日の営業を拡大し、今年度も引き続き、火曜日は「せせらぎ保健センター」、水曜日から金曜日は敬楽荘のラウンジ(現在は新型コロナウイルス感染対策の為、旧デイサービスにて営業中)での実施を予定しております。

生きがいデイサービスは生活リハビリや屋内外行事等を通じた介護予防、利用者の生きがいづくりを念頭に置き、年間目標利用率を75%と設定し運営をしてまいりましたが、年間平均66.3%と達成することができませんでした。

次年度は平均利用率70%を目標に、現在利用されている利用者のニーズ調査や満足度の向上のため、必要に応じたサービスプログラムの見直し、利用者の生きがいづくりのため、美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンターをはじめ、北斗市、北斗市地域包括支援センター「かけはし」等、関係機関との協力体制のもと、総合相談窓口として取り組んでまいります。

これからも、自立支援の視点を忘れず、利用者またはご家族に安心してご利用いただけるデイサービスセンターを目指して取り組んで参ります。

2021年 3月31日

美ヶ丘敬楽荘デイサービスセンター  
統括主任生活相談員 福地 寛己

## 2020年度事業報告書（美ヶ丘ケアプランセンター）

### はじめに

2020年度は、複合的地域拠点における総合相談窓口としての役割を担い、運営体制の安定並びに強化を図ることを基本方針として、以下の4点について重点的に進めることを目標に取り組んで参りました。

重点目標の1点目は、「運営体制の安定と強化」です。

新型コロナウイルス感染拡大が懸念される中で年度がスタートし、各サービス事業所へ訪問してご利用者へ面会することがほぼできなくなり、ご利用者宅への定期訪問や担当者会議なども必要最低限の時間、最低限の参加者招集で対応せざるを得ない場面が多くありました。そんな中であっても、新規利用者や状態変化によるプラン変更など、ご利用者にとって重要となる局面では、相談、アセスメント、提案にしっかりと時間をかけ、安心して在宅生活を送っていただけるよう支援してきました。事業所の介護支援専門員4名のうち、3名が主任介護支援専門員という体制を生かし、各担当利用者の近況を事業所内で共有し、時

には互いにアドバイスをするなどして、ご利用者、ご家族への効果的な支援が展開できるように努めてきました。

2点目は、「介護支援専門員のスキルアップ」です。

外部研修や内部研修の年間計画、他法人との合同事例検討会の年間計画を作成し、スキルアップを図る予定でしたが、今年度はほぼすべての研修が中止となってしまいました。北斗市主催で感染対策を施して開催された研修も途中で中止、オンライン研修も年度後半に数件の案内があっただけで、研修参加により知識を深める機会はほぼなかったと言えます。ですが、ウィルス感染対策についてはしっかりと知識を身に付けるよう努めました。自分たちが感染源とならないよう、事業所内で感染対策についての方法や対応を常に話し合い、事務備品等の消毒や訪問前後の車両、衣類の消毒を確実にこなうよう努めてまいりました。次年度は、各種研修が再開されると思いますので、多くの研修に参加しスキルアップを図りたいと考えています。

3点目は、「関係機関との連携強化」です。

今年度は、北斗市役所、北斗市地域包括支援センターからの相談や依頼を確実に受けてきたことで、これまで以上に事業所への信頼を得られたと考えています。また、利用者の入院、退院の際は、医療機関と電話や書面で連携を図り、在宅時の情報を提供したり、入院中の治療経過を情報収集することで、退院後の在宅生活に備えるようにしてまいりました。

1月には北斗市内のサービス事業所において新型コロナウイルスのクラスターが発生し、当該事業所は事業を休止せざるを得ない事態となりました。この際も包括支援センターからの依頼で、この事業所のご利用者の生活に不都合が発生しないよう、3名のご利用者を一時的に居宅サービス利用により支援し、事業再開の折には無事に元の事業所の利用再開へつなげました。事態収束後、包括支援センター所長より「今回は、感染事業所への偏見もなく、急な対応を要する依頼を受けてもらいとても助かった」との言葉もいただいており、今後の新規利用者紹介につながっていくものと思っております。

4点目は、「事業運営の安定化」です。

今年度は、七飯町からの新規利用相談はありませんでしたが、北斗市役所、北斗市包括からの相談の他、地域住民からの直接の相談も数件あり、確実にサービス利用に結び付けることで担当件数の増加を目指して参りました。年間の新規契約件数が30件に対し、廃止件数は29件と、契約利用者数の大きな純増には至りませんでした。長期入院やご利用者の意向によるサービス休止が少なかったことから、毎月120件以上の請求件数を維持でき、目標である127件を超える月もありました。年間を通しての最大件数は132件となり、年間平均では124件を達成することができました。次年度は、年間平均で127件を達成できるよう、新規利用者獲得に努めます。

次年度は、引き続き複合的地域拠点の総合相談窓口としての役割を担いながら、適切なケアマネジメントを提供し、要介護高齢者やご家族が、住み慣れた地域で安心して在宅生活が続けられるよう努めて参ります。関係機関との連携も一層強化し、運営体制に見合う担当件数の増加に取り組んで参ります。

2021年3月31日

## 2020年度事業報告書（美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家ゆとり）

### はじめに

2020年度、美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家ゆとりは、1年を通して新型コロナウイルスの感染予防を最優先に取り組んだ年となりました。ご利用者からも職員からも1人の感染者も出さないよう職員一丸となって取り組み、職員には行動制限や行動自粛を求め、ご利用者とご家族には面会や外出、外泊の制限にご協力いただきました。特に、ご利用者の状態観察を徹底し、小さな変化を見逃さないよう多職種で取り組みました。その結果、新型コロナウイルス感染者を1人も出さなかつただけでなく、嘱託医の理解と協力のもと早期受診による重症化予防の取り組みが入院者及び入院日数の減少に繋がり、利用率100%の月を7回、年間平均利用率99.0%という、ゆとり開設以来初めての実績を残すことができました。

また、基本方針として、「入居者の健康と生活を守る」「トータルケアを中心としたケアの確立」「入居者が安心して暮らすことのできる施設」「ご家族から一層信頼していただける施設」「職員定着率の向上」「感染症対策の充実」「施設事業運営の安定化」に取り組むこととし、以下の4点を重点目標として事業を運営して参りました。

重点目標の1点目は、「基本理念、目指すべき姿の浸透を図る」です。胃ろうの方6名、平均要介護度4.06、入居者の半数以上が90歳以上（最高齢は103歳）という重度化及び高年齢化が進んでいる状況において、入居者の健康と生活を守るために常に基本理念を念頭に日々のケアを提供していくことが大切であると考えました。

具体的な取り組みとしては、朝礼における理念の唱和を継続し、朝礼に参加している職員のほとんどが理念を暗唱できるようになりました。今後は、朝礼に参加していない職員への浸透を図り、常に基本理念を意識しながらケアを行うことができるよう取り組んで参ります。また、面会制限等を実施する中、ご家族への情報提供として、ご利用者の写真を添えたメッセージカードを郵送する取り組みを行い、ご家族には大変喜んでいただきました。

重点目標の2点目は、「トータルケア・プログラムの推進」です。導入から5年目の年となり、リーダー以上の職員にはトータルケアがケアのベースになってきています。

2020年度、具体的に取り組んだこととしては、認知症カンファレンスシートを用いたケースカンファレンスをほぼ毎月開催したことです。ご利用者の気になることや現場が困っ

ていることに向き合い、自分たちでカンファレンスを行いました。現状把握、要因分析、仮説に基づくケアの実施を継続しました。予定されていた北海道老人福祉施設協議会主催の「多職種協同による自立支援と重度化対応・重症化予防研修（＝トータルケア研修）」が新型コロナの影響で中止になり、また、泉田氏を迎えてのトータルケア研修もオンラインでの実施になるなど、例年とは異なる状況がありましたが、トータルケアへの取り組みは一步進めることができました。今後は、スタッフへの浸透を図っていきたいと考えています。

重点目標の3点目は、「職員の育成及び定着」です。

2020年度は、採用した3名の職員全員に採用時研修を実施することができました。また、エルダーによるサポートも行い、定着に努めました。

現任職員に関しては、5連休の取得を推奨してきましたが、取得できたのは一部の職員にとどまりました。新型コロナウイルスの影響で連休を楽しめないということも連休取得が進まなかった一因ではありますが、2021年度は心身の休養のためにも対象となる全職員が5連休を取得できるよう取り組みたいと思います。

外国人介護人材については、新型コロナウイルスの影響で自国から出国することができず、2020年度は迎え入れることができませんでした。

重点目標の4点目は、「コンプライアンスの強化と施設事業運営の安定化」です。

施設事業運営の安定化のため、特養の年間平均利用率の目標を96%として取り組んで参りました。前述したとおり、年間平均として99.0%の利用率となり、目標を大きく上回ることができました。

短期入所生活介護については、年間平均利用率80%を目標に、リピーターの確保と新規利用者の積極的な受け入れを進めた結果、15名の新規利用者を受け入れることができました。利用率は年間平均で89.2%となり、目標の80%を上回ることができました。ロングでの利用者が年間平均7.25人と多かったことが安定した利用率に繋がった要因として挙げられます。

上記のとおり、収支差額の改善を図るための収入面での取り組みが一定の成果を上げることができたため、2021年度においては、利用率を維持しつつ支出面での改善に取り組んでいきたいと考えています。

一方、コンプライアンスの面では反省する点が大きく、新型コロナウイルス対策の一環とはいえ、運営推進会議の開催を見送ったことや避難訓練が未実施となってしまったことについては早急に改善して参ります。運営推進会議については、渡島管内における新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、2021年度は開催方法を工夫して開催していきたいと考えています。また、避難訓練については、感染症対策と同様に万が一に備える重要な訓練で

あるため、2021年度早々に実施して参ります。

2021年度は、報酬改定に対応したコンプライアンスの強化を図り、災害・防災対策に引き続き取り組むとともに、新型コロナウイルスへの対応など、感染症対策の充実を図りたいと考えております。また、基本理念とトータルケアをケアのベースとして、スタッフにも浸透できるよう取り組んで参ります。全国高齢者ケア研究会が主催するWEBセミナーを積極的に受講するとともに、内部研修の充実にも取り組み、ユニットリーダーを含めた推進体制を構築し、入居者の穏やかな、笑顔ある暮らしを追求して参ります。併せて、家族や関係機関への日常的な情報提供と接遇の向上に努め、一層信頼される施設を目指して参ります。

2021年3月31日

地域密着型特別養護老人ホーム  
美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家ゆとり  
短期入所生活介護 美ヶ丘敬楽荘  
施設長 伊藤 巧

## 2020年度事業報告書（美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家きずな）

### はじめに

2020年度、美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家きずなは、1年を通して新型コロナウイルスの感染予防を最優先に取り組んだ年となりました。ご利用者からも職員からも1人の感染者も出さないよう職員一丸となって取り組み、職員には行動制限や行動自粛を求め、ご利用者とご家族には面会制限にご協力いただきました。その他、外出行事やボランティア受け入れの制限などご利用者にとっても例年とは大きく異なる年になりました。

コロナ禍においても小規模多機能型居宅介護事業の役割を念頭に、関係機関からの依頼による多様な利用者の受け入れやクラスターが発生した市内他事業所のご利用者7名（濃厚接触者）を受け入れてサービスを提供するなど、可能な限り利用者の在宅生活を支援する取り組みや地域貢献にも努めて参りました。

また、基本方針として、「多様な利用者の在宅生活を支援すること」「利用登録者の安定的確保」「事業運営の安定化」「感染症対策の充実」に取り組むこととし、以下の3点を重点目標として事業を運営して参りました。

重点目標の1点目は、「利用登録者の安定的確保を図る」です。

具体的な取り組みとしては、多様な利用者を受け入れ、一人一人のニーズを踏まえた柔軟なサービス提供に努めるとともに、関係機関との連携強化に努めました。その結果、医療機関や北斗市地域包括支援センター、北斗市内の居宅介護支援事業所から利用可否の問い合わせが継続するようになりました。

クラスターが発生した市内他事業所のご利用者7名を除いた年間の新規登録者は14名、登録解除は13名（入院による登録解除及び再登録を含む。）でした。各月の登録者数

は22～25名と安定しており、年間平均登録者数は23.75名で目標の23名以上を達成することができました。

また、前述のとおり行事関係に制約のあった年でしたが、季節ごとの行事においては職員が工夫を凝らしてご利用者に楽しんでいただき、食事の面においても、委託業者の協力を得て、目の前で天ぷらを揚げて食べていただいたり、寿司を握っていただくというイベントを実施することができました。

その他、アクティビティーを通しての身体機能維持、会議の場での情報共有に取り組みました。

重点目標の2点目は、「安定的にサービスを提供する」です。

要支援1から要介護5まで、また、若年性認知症がある59才のご利用者から97才のご利用者まで、様々な事情を有するご利用者に安定的にサービスを提供するため、経験豊富な臨時看護職員を1名採用しました。

また、2019年度に続き、2020年度も1名、介護福祉士試験にチャレンジして合格することができました。常勤介護職員8名のうち7名が介護福祉士となりました。2020年度は新型コロナウイルスの影響もあり、連休の取得は進みませんでした。2021年度は心身の休養のためにも、対象となる全職員が必ず5連休を取得することを目指します。今後も職員の定着に取り組みながら、安定的にサービスを提供するための体制を構築して参ります。

重点目標の3点目は、「コンプライアンスの強化と事業運営の安定化」です。

利用登録者の安定的確保とともに、多くの方々に関わっていただきながら開かれた事業所を目指して取り組んできましたが、2020年度は新型コロナウイルスの影響で例年取り組んできたことのほとんどが実施できませんでした。

また、新型コロナウイルス対策の一環とはいえ、運営推進会議の開催を見送り、書面報告としたことや避難訓練が未実施となってしまったことについては、コンプライアンスの観点から反省すべき大きな点であり、早急に改善して参ります。運営推進会議については、渡島管内における新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、2021年度は開催方法を工夫して開催していきたいと考えています。また、避難訓練については、感染症対策と同様に万一に備える重要な訓練であるため、2021年度早々に実施して参ります。

2021年度は、報酬改定に対応したコンプライアンスの強化を図り、災害・防災対策に引き続き取り組むとともに、新型コロナウイルスへの対応など、感染症対策の充実を図りたいと考えております。

また、小規模多機能型居宅事業の役割を念頭に、今までの取り組みを継続しながら利用登録者の安定的確保を図るとともに、特に、訪問サービスの利用が増加傾向にあることを踏まえ、今後の動向を見極めながら加算の算定や人員配置について検討して参ります。

2021年3月31日

小規模多機能型居宅介護  
美ヶ丘敬楽荘せせらぎの家きずな  
代表者 伊藤 巧



## 2020年度事業報告書（ふれあい食堂いこい）

### はじめに

ふれあい食堂いこいは、地域包括ケアシステムの拠点を目指して2015年2月18日にオープンしてから丸6年が経過しました。

ふれあい食堂いこいの活動に共感していただいた、地域住民による調理ボランティア等をはじめ、本郷町内会、北斗市食生活改善協議会、北海道教育大学函館校、大野小学校など様々な団体と協同した活動を展開し、一般介護予防や地域ニーズの解決のためのネットワークができました。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、地域交流の場として機能することが大変困難でありましたが、数回に渡る臨時休業時も再開を待ち望む声や「元気〜？」と顔を見せて下さる方々に救われました。

支えているつもりが、逆に支えられているというのはよく聞きますが、まさに今年度ほど実感したことはありません。この御恩にも応えるために、感染予防を徹底し、少しでも安心して利用してもらえるよう尽力していききたいと思います。

大野小学校で実施しているコミュニティスクール（CS）の活動においては学習発表会の様子をZOOMで繋ぎ、密を避けた多世代交流を計画し実施しました。

次年度もZOOMの機能を用いて、いこいから法人他事業所へ三味線、大正琴などの演奏の配信も検討しており、各事業所の利用者様と披露する機会を求めている方々とのマッチングをしていきたいと思っています。

調理ボランティアの方々にはコロナ過で不安な状況にも関わらず、地域の方々の心配、配慮をされておりました。また、人手が不足する曜日には、積極的に応援をしに来て下さる方もおられました。6年という月日で様々なことを共有してきたチームは、決して良い状況ではないこの時世に強みが増した印象を受けます。この状況下だからこそ、ボランティアの方々とともに原点である「食を通して気軽に来れる場」として安心、安全に来店していただけるよう感染予防を徹底していきます。

サービスBにおきましては、「むらた整骨院」の先生におこしいたごき、専門的な内容で実施しました。日常生活における基本動作から健康的な食事の提案まで幅広い内容で実施されています。今後も参加しやすいフレイル予防の取り組みとして継続していきたいと思っています。

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、北海道教育大学函館校主催のオープンゼミ「いこーる」が開催できませんでした。次年度も大学とは連絡を取り合い、開催できる事を祈り準備をしていきたいと思っています。

今年度は感染拡大予防のため臨時休業を余儀なくされました。次年度も不安の尽きない日々が予想されます。このような時世だからこそ小さなニーズへも手を差し伸べ、支え合える地域を継続していけるよう次年度も感染予防を徹底し、様々なキッカケが生まれ続ける場を地域の方々と作り上げていきたいと思っています。

2021年 3月31日

ふれあい食堂 いこい  
地域連携室相談員 工藤 公洋

※詳しい内容等については、各事業所にある「事業報告・計画書」を参照して下さい